

共に支え合い、生きていこう

DecoBoco VOL:09

仕事が楽しい

施設に通う仲間たちに

「何をしているときに楽しいですか？」というアンケートを取ったことがある。

結果は6割以上の利用者が「仕事をしているときに楽しい」と回答した。

自分の仕事が誰かの喜びになる、役に立つ。

仕事の楽しさを誰よりも知っているのは利用者の仲間たちの方だ。

仕事を通じて仲間たちから褒めってもらうことはとても多い。

シリーズ

みふねデコボコ会の歩み その3

障害を持つ人々の働く場を作りたい！初代代表が動き出しました。

展示会開催レポート

2つの展示販売会を開催することができました。その時の様子をお伝えします。

みふねデコボコ会の歩み

その3

1977年 御船町で産声をあげた「みふねデコボコ会」

どこにでもいる主婦だった小森がなぜデコボコ会をはじめたのか。その想いは？
設立当時のなつかしい写真と共にわたしたちの歩みを振り返ります。



みんなの働く場を作ろう！

1986年、小学校低学年の頃からデコボコ会に通い続けていた子どもたちが中学校を卒業するタイミングで働く場としての“小規模作業所”を作ることになりました。

当時、障害者の方々の就労は親御さんや学校の先生などが近隣の飲食店やスーパーに就労させてもらえないかと頼み就労しているケースが主でした。しかし、そのような就労につながる方々というのは比較的障害の軽い方が多く、重い障害

を持つ方々が就労できるチャンスは熊本市まで足をのばさなければいけないのが現状でした。

幼いころからデコボコ会で遊び、成長してきた二人の子どもたち。御船町では就労のチャンスが無いと考えたデコボコ会創立者の小森おばちゃんは、いっそのことデコボコ会の中に“働く場”を作って二人の子どもたちの就労を支援しようと考えました。

作業所を創設した1980年代後半は、全国的に障害者の作業所運動が盛り上がり就労支援施設が続々と誕生していました。しかし、他の施設同様デコボコ会も無認可での運営でしたので行政からの補助金等が無い中で運営を続けました。

当時のデコボコ会でのお仕事といえば、リヤカーを引いて町のあちらこちらで廃品回収を行う事でした。暑い日も寒い日も町中をみんなで廃品回収に行くのは大変でしたが、自分たちから町に飛び出し地域住民の方々とコミュニケーションを取ることで沢山の優しい方々と知り合うことができました。

また、廃品回収で顔見知りになった青年たちに町で声をかけてくださるようになるなど地域社会の一員として出迎えてくださる場面も増えました。今もお付き合いのある町の方々は当時の廃品回収を通じて知り合った方々です。



補助金等が無いため、運営はとても厳しいものでしたが御船町が建設されたばかりの「高齢者コミュニティセンターひばり荘」内の一角を無償で貸し出してくださるなどありがたい応援もあり日々皆で楽しくも賑やかに活動ができていました。御船町中を走り回って廃品回収をしたことはデコボコ会の原点だと考えており、今後の就労支援のなかでも地域の中に飛び込んで何かお仕事ができたらと考えています。

その4へ続く・・・

文責：上田

小さな秋の展示会開催レポート

2021/10/1(金) - 10/7(木) 器季家カフェ
(熊本市中央区西唐人町)



熊本市中央区の趣のある建物を利用したカフェ「器季家(ききや)」さんにて、多機能型支援センターでこぼこに通う青年達の手仕事作品やふっくら美味しいパンの販売などを行いました。



約1週間におよんだ開催期間中は、近隣住民の方々はじめ沢山のお客様にご来場いただき青年たちの手仕事作品を手にとっていただくことができました。期間中、青年たちも会場に足を運び自分たちの作品がお客様に喜んでいただけている様子を誇らしげに眺めていました。

デコボコ会の青年たちや手仕事に興味をもってくださった皆様、ありがとうございました！

decobocoマルシェ開催レポート

2021/11/26(金) - 11/27(土) 多機能型支援センターでこぼこ
(上益城郡御船町御船993-11)



毎年、12月3日から9日は「障害者週間」に指定されています。熊本県では、障がい者への理解促進を目的として、様々なイベントを開催しています。今回、みふねデコボコ会ではふれあいハートウィーク地域イベントの一環として「でこぼこマルシェ」を開催しました。施設利用者である青年たちが制作した作品を展示販売しました。当日、会場では焼きたてパンやクッキーなど食品の販売、オリジナル雑貨などを販売。ご家族はじめ地域の方々に沢山ご来場いただくことができました。

続々と新たなお仕事に挑戦中！

「多機能型支援センターでこぼこ」に移行後、工賃向上のため様々なお仕事に挑戦しています。週に1度受注販売していた「生食パン」の販売エリアを拡大したり、薪の販売を開始したり・・・どうしたら工賃を向上できるか？皆で知恵を出し合って頑張っています！

生食パンの店頭販売、ふるさと納税返礼品として取り扱い開始



以前より、受注販売を続けていた「生食パン」11月より「もっと多くの方に食べていただきたい！」という思いから、多機能型支援センターの一角で毎週水曜日に店頭販売を開始しました。また、週末の土曜日と日曜日に吉無田高原にある「緑の駅」という施設での委託販売も開始。徐々にではありますが、固定客も着くようになり早々に売り切れる日も増えてきました。また、ふるさと納税でも取り扱いを始めるなど今後は全国の方にて手に取っていただけることと思います。

薪の販売を開始！薪ストーブご使用の方、ご注文お待ちしております！



理事長のご自宅にいくつも積みあがっている薪の山！頑張って薪を割ってくださったのは理事長のご主人です。薪の種類はスギ・ヒノキを始め広葉樹もご用意しています。今後は、アウトドア用品店や近隣のキャンプ場などにも営業をかけて販売先を確保したいと考えています。もちろん、個人の皆様からのご注文も承っております。どうぞ、お気軽にご連絡ください！

編集後記

気が付いたら、年末も目の前に迫ってきました。昨年同様、今年も相変わらず新型コロナに振り回された一年だったなあと思います。それでも、秋からは感染者数も減少傾向になり広報誌内でもお伝えしていますように展示販売会を2回開催することが出来ました。青年たちの様子を見ていても分かることですが自分の仕事の結果が誰かに喜ばれている・・・というのはとても嬉しいことのようにです。（当たり前ですがけれどもね）現在の

多機能型支援センターでこぼこの平均月額工賃はB型11,000円生活介護3,742円です。平均的な障害年金と合わせて十分な生活費を手に入れるためには、まだまだ工賃の向上は必要です。まずは、B型の工賃15,000円、生活介護の工賃5,000円を目指して頑張りたいと思います。しかし、ちょっとばかり心配なのは大きく変異しているという話のオミクロン株の存在ですね。引き続き気を抜かずに感染対策を徹底したいと思います。ウエダ

ホームページ



<http://www.dekoboko-npo.com>

facebook



<https://www.facebook.com/mifune.dekoboko>

instagram



https://www.instagram.com/mifune_dekoboko/

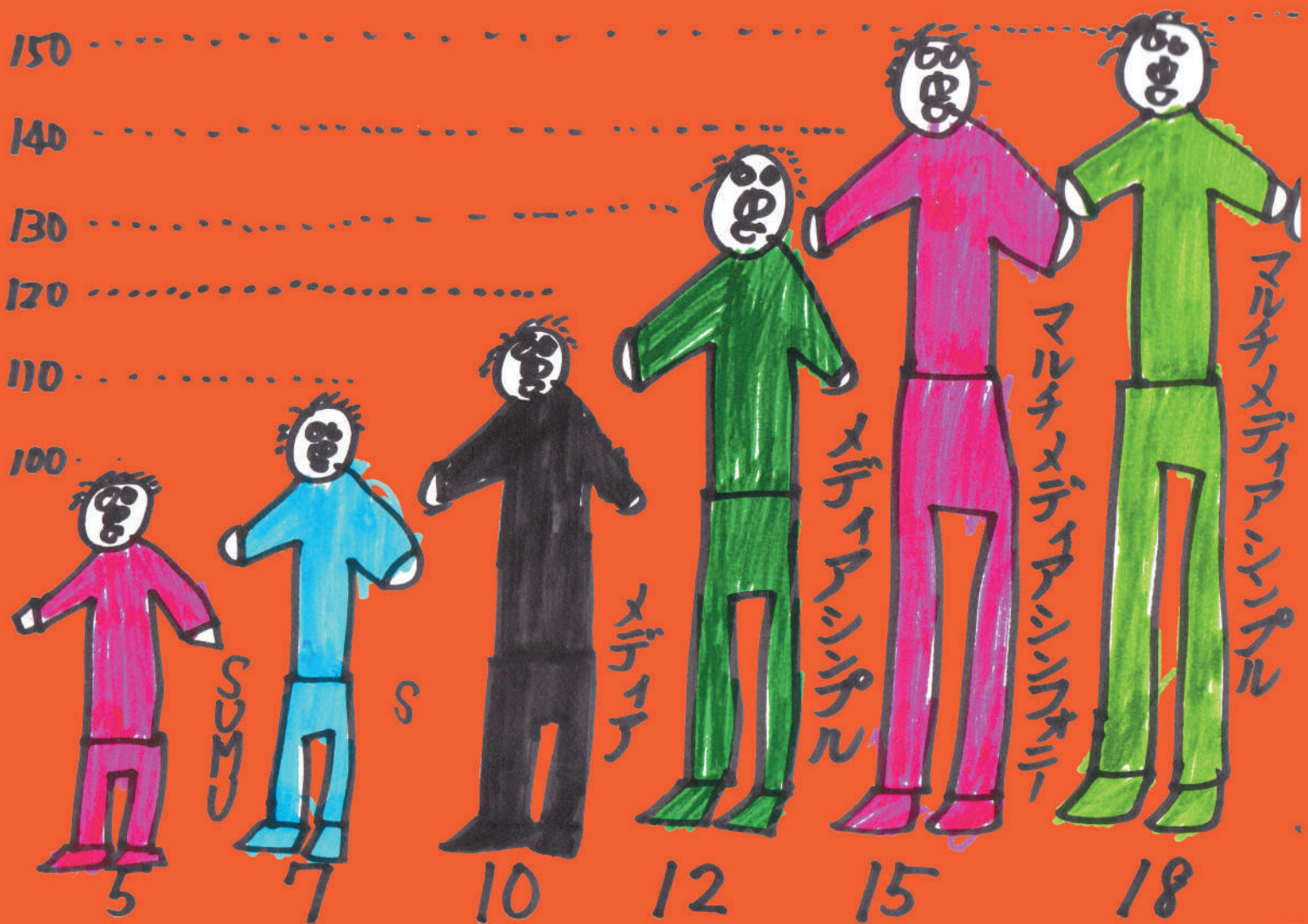
NPO法人みふねデコボコ会
代表：栗原秀子

〒861-3203
熊本県上益城郡御船町高木4494-46
TEL・FAX (096) 282-4180

担当：上田

作品介绍

日々の創作活動のなかから生まれた仲間たちの作品を紹介するコーナーです。
作品を紹介すると同時に作者である仲間たちのことも知っていただけたらと思います。



作者紹介

田上 明宏

高校卒業後から、みふねデコポコ会に所属。数字、道路標識、地図、人の生年月日などに強い興味を持っており作品のモチーフになっていることが多い。

また、作品のまっすぐに引かれたラインなどからも分かるように比較的几帳面な性格であり特に時間管理については施設内のタイムキーパー的な役割も担ってくれている。

今回の作品は、彼の過去の作品であり人をモチーフにしたり原色に近い色を使って描くのは今はほぼ見られない。彼の作品の特徴として、彼自身の世界観だからこそ出てくる楽しい言葉の組み合わせがある。何を考え、何をみてその言葉を組み合わせたのか？意味を想像しながら見てほしい



あなたもデコボコ会の応援団になりませんか？

サポート会員募集中！

サポート会員とは？

サポート会員とは、私たちの活動の趣旨に賛同いただき会費を払っていただくことでデコボコ会に通う子ども達や障害のある青年たちが地域の中で心豊かに生きてゆけるよう支援する制度のことです。正会員の方は総会などでの発言権を付与されるため、実際に運営に携わっていただくことも可能です。

会員種別と会費

正サポート会員・・・入会金10,000円、年間費2,000円
準サポート会員・・・法人2,000円 個人1,000円

申込方法

入会希望の旨、FAX、メール等でお送りください。
その際に、氏名・電話番号・住所などを添えてお送りいただきますよう
よろしく願いいたします。

問い合わせ先

(電話・ファックス) 096-282-4180
(メール) dekoboko@ari.bbiq.jp

